
合宿です！！全員集合！！

みさメロン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

合宿です！！全員集合！！

【Nコード】

N4907Z

【作者名】

みさメロン

【あらすじ】

スマブラメンバーが合宿を行います！

時には楽しみ、時には悲しみ、時にはみんなと戦い！！！！

なんと、SEGAからも合宿参加するキャラが・・・・！！？

恋の行方は誰のもの・・・？そして別れるとき・・・・・・。
スマブラの合宿の様子をご覧あれ！！！！

合宿の始まりです！（前書き）

初の投稿となります！！

まだまだ未熟なんですが見てくれたら幸いです！！

それでは始めます！！！！！！

合宿の始まりです！

ある日の事・・・

ある人物、二人が話をしていた。

？「なあ、左。またあれでもしないか？」

？「おい、右よ、どうしたんだあ？」

右「マスター 左「クレイジー

マスター「だーかーらーあれだつて」

クレイジー「・・・。あああ！あれか？」

マスター「そう、あれ」

クレイジー「UNOかあ？」

マスター「・・・」

クレイジー「あら？違った？」

マスター「全然違うわああー！！！」

クレイジー「冗談・通じねーのかよお」

マスター「お前な・・・」

クレイジー「わーかってるって！あれだよな？」

マスター「・・・言ってみろ」

クレイジー「トランプだろ!!?」

マスター「ふざけるなあ——!!——!!」

((((「、、」ビ ((。)(ノム!!——!!

マスター

クレイジー

『乱闘中・・・』

クレイジー「ほんとーにわかってる・・・。合宿だろ・・・?」

マスター「ああ・・・」

クレイジー「で?俺にどうしろと?」

マスター「私は招待状送るから左は・・・」

クレイジー「改築すればいいかあ?」

マスター「ああ、よろしく頼む」

作者「あ、あっさりと・・・

」

場所は変わり……………

？「兄さん、手紙が届いてるよ」

？「なんだ？手紙で喜んでのかあ？」

？「いやいや、手紙で喜んでるわけじゃ……………」

？「まあ、お前の事などどうでもええわ」

？「ひどいよ……………兄さん……………」

自称ミスター任天堂のマリオと永遠の二番手と呼ばれるが影が薄い
ルイージが話をしていた。

ルイージ「作者……………影が薄いは余計だか……………」

マリオ「だまれ、ルイージ！！出してくれるだけでありがたいと思
え！特にお前は——！」

ルイージ「作者も兄さんひどいや……………」

落ち込むルイージ（……………）を無視し、マリオは封筒からあ
るものを出した。

マリオ「招待状……………ルイージお前……………」

ルイーダ「どうせ僕なんか・・・、僕なんか・・・！」

マリオ「ああ、精神的ダメージが大きい・・・」

うん、あれは普通だ。大丈夫！！

マリオ「・・・。いや、あれ普通？・・・ルイーダ、お前にも招待状が来てるぞ」

ルイーダはマリオから自分の招待状を取った。

ルイーダ「ほんとだ！！！！・・・ってこれ・・・」

マリオ「スマブラ合宿の招待状じゃないか！？」

ルイーダ「ええええええ！？またあのおんボロの家で・・・？」

マスター「おんボロで悪いな！！」

マリオ「えつと前に行ったのはいつだっけ？」

ルイーダ「確か・・・7ヶ月前かな？Xメンバーで行ったときだよ」

マリオ「またXメンバーか？まあリストラ組はいらんけど・・・。」

リストラ組「リストラ組とかいうなあー！！」

マリオ「ぶえくしょん！！なんかリストラ組の声が・・・？んなわけないか！」

ルイージ「兄さん、早く準備しないと！」

合宿の始まりです！（後書き）

いかがでしたか？短くてすみません・・・。

感想お待ちしております！どうぞ遠慮なく言ってください！

これからも見てください！よろしくです！！ みさメロン でした。

合宿へ・・・Let's GO!?(前書き)

2話目！突入！

あんまりおもしろく無いかも・・・。
スマブラメンバー「いらん事をいうなあ!!!!」

合宿へ・・・Let's GO!?

ここは・・・？

そう、ここは・・・終点だ。

Xメンバーはもちろん全員・・・。

ん？あ、あれは・・・！！

リストラ組！！！！！？？

リストラ組「作者もリストラ組っていうなあー！！」

いや、だってほんとのことやん！！v）　　）ニヤッ

リストラ組「うう・・・」

マスターは今回の目的を話す。
そんな説明途中で突然真っ白な光に包まれた。

全員「目がつ．．．!!」

光が．．．

消えた．．．．。

光が消えた後、一人の少女が立っていた。

？「痛たたたた．．．。あ、あれ？ここはどこ？」

？「ここは、終点よ」

スマブラメンバーの一人の女性が答えた。

彼女の名はサムス・アラン。バウンティハンターである。（今は、ゼロスーツサムス）

？「終点．．．？あれ、思い出せない．．．」

サムス「えっ！？記憶喪失！？」

？「．．．いえ、そうではないのですが．．．」

？「あれ！？アルルか！？」

？「えっ・・・？君は・・・ソニック・・・！！？」

ソニック「どうしてこんなところにいるんだ？」

アルル「えっと・・・」

サムス「ちよつとまって！なんでソニックが知ってんの？」

ソニック「ああ、スマン。こいつはアルル。オレと同じSEGAなんだ」

アルル「あ・・・うん・・・」

サムス「同じSEGA・・・へえ」。あつ、話続けて」

アルル「え・・・はい。ソニックに用があつて家を訪ねただけど・・・」

『スマブラ合宿があるため外出してるぜ』って書いてあつて。スマブラに参戦してるのは

聞いているんだけど・・・。スマブラの世界ってどんなのかと思つてたら突然光に包まれて

気付いたらここに・・・」

サムス「なるほどね・・・」

ソニック「で、オレに用事があつたんだろ？なんだ、その用事って？」

アルル「・・・。ごめん、忘れちゃったよ（――；タラタラ」

ソニック「おいっ!!」

サムス「一応、記憶喪失ではないのね・・・」

アルル「えっと・・・ぼくこれからどうすれば・・・?」

サムス「マスター元の世界に送ってあげたら?」

マスター?「嫌だ」

サムス「なんで!?!」

マスター?「めんどいから。ってか、俺マスターじゃねーし」

全員（アルルを除く）「えっ!!?!」

マスター?「俺はクレイジーだっ!!」

全員（アルルを除く）「・・・・・・・・・・」

全員（アルルを除く） 「ええええええ！！！？？」

クレイジー「気付くのおせーんだよ」

サムス「えっ？でもなんで？」

クレイジー「マスターの能力は相手を転送、物を作ったり・・・、そんな感じ。

で、俺は物を破壊したり・・・まあたくさんあんだ

「あいつみたいな能力はないってわけだ」

全員「（例えば1つしかでてない・・・）」

サムス「じゃあ私たちは？これから合宿なのに、どうやって行くのよ？」

クレイジー「ここは終点。だからそんな能力が無くても行けるってわけ」

ソニック「じゃあさ、アルルは元の世界に戻ることが出来るんじゃないの？」

クレイジー「残念ながら、ムリだ。ここは任天堂の世界しか行き来出来ない」

アルル「……って言うのは……」

クレイジー「お前も合宿に来るんだな」

アルル「改めまして、ぼくはアルル・ナジャ。SEGAの『ぶよぶよ』の世界から

来ました。よろしくお願いします」

全員「よろしく」

そうして、合宿に参加する事になったアルル。

？「あの子、かわいいなあ」

This is Marth. (こちらはマルスです。)

なぜ英語！？

アリティア王国の王子です。

マルス「あの子も合宿するんだ……。チャンス！！」

？「何考えてんだ、マルス？」

マルス「わっ、ア、アイク！」

アイク「変な事考えるなよ？お前、女いるじゃん……」

マルス「シーダの事？」

シーダ「タリス王国の王女、マルスの婚約者。ここでは、シーダの片思いつていう設定です。」

アイク「ああ」

マルス「別に僕が好きじゃないし……。まさか、アイクも狙ってる、あの子？」

アイク「はあ？」

マルス「はあ？じゃない！！」

アイク「女なんか興味ねえよ」

マルス「じゃあ、手出さないでよ？」

アイク「……………」

マルス「でもアイク、妹いるのに……」

アイク「バカ！！俺はミストとシスコンじゃない！！」

マルス「そんな事は言っていないけど……？ってか、よくシスコンの意味知ってたね！」

アイク「シスコン言うな！！」

合宿へ・・・Let's GO!?(後書き)

これで2話目も終了！

感想、ください!!

どしどし指摘ください!!悪いところがあれば直します。

部屋割り（前書き）

更新遅くなりすみません・・・！！

の、わりには短いかも・・・。

部活・・・、執行委員のスピーチ原稿書いたりとか・・・
はい、言い訳にしか聞こえませんかよね・・・

では、始まります！！

部屋割り

クレイジー「んじゃ、移動すつぞ」

クレイジー「着いたぞ」

全員「!!!?!」

ルイージ「めちゃくちゃでかい・・・、それにキレイ・・・」

クレイジー「今回は、改築したばかりのこの宿(?)で住んでもらう」

アルル「あゝ」

クレイジー「ん?どうした?」

アルル「ぼく荷物無いんですけど・・・?」

全員「・・・・・・」

クレイジー「ああ、それならマスターに言えば大丈夫だ」

アルル「は、はぁ・・・」

？「おお、来たか！」

全員（アルルを除く）「マスター！？」

マスター「ようこそ、ファイターたちよ・・・」

アルル「この人がマスター・・・？」

マスター「・・・？君は？」

アルル「は、はい！？」

マスター「なぜこんなところに？」

アルル「ぼ、ぼくはアルル・ナジャ。突然、真っ白な光に包まれ、
終点という場所にとばさ

れて・・・。帰る方法がわからずみなさんと一緒に合宿参
加する事になったんです」

マスター「なるほど・・・」

アルル「・・・」

マスター「まあ、よからう。君にも参加してもらおう」

アルル「あ、ありがとうございます」

マスター「では、部屋割りはこのようになってるからな
(なぜこんなところに他社の者が?)」

『部屋割り』 このようになってます

A マリオ、ルイージ、ドンキー、ディディーコング、ヨッシ
I、

キャプテン・ファルコン

特にない・・・(笑)まあ、仲が良さそう(?)組

B クッパ、ワリオ、ガノンドルフ、スネーク

悪っぽい・・・(スネーク以外)

C ロボット、カービィ、メタナイト、デデデ、Mr.ゲーム
&ウオッチ

なんか普通の人いねーな!

D フォックス、ファルコ、ウルフ、ソニック

ここ人いねえー!動物やん!!

(狐、鳥、狼、ハリネズミ)(笑)

E ピカチュウ、ルカリオ、プリン、ピチュー、ミュウツー
ここは、ポケモン組

F トウインリンク、ポポ(アイスクライマー)、オリマー、
レッド(ポケモントレーナー)、ネス、リユカ
ここは子供組?

G リンク、ピット、マルス、アイク、ロイ

ここは、剣士組かな？

H ピーチ、ゼルダ、サムス、ナナ（アイスクライマー）、ア
ルル

ここは・・・女組ですね

カービー「メタナイトは剣士組に入らないの？ピットって剣士組
？」

（まあ、メタナイトと一緒にだから変えてほしくないけど・・・
）

作者「んとね。うち、考えたんだ」

カービー「何を？」

作者「1頭身なんかいらんでしょう？つて！（笑）」

メタナイト「作者・・・やっていいか？」

作者「えっ……。ええええええー！？」

メタナイト「最後の切りふだ！ギャラクシアダークネス！！」

作者「だから待てー！ー！！！！つぎー！ー！！！！」

作者「メタナイトファンの方、申し訳ありませんでした・・・」

作者は全治二ヶ月の大怪我を負いました・・・。
。　　嘘ですけど・・・。

全員「当たり前！！！！」

部屋割り（後書き）

どうでしたか・・・っていいところないですね・・・（汗）

こんなんでも感想を書いてくれたら嬉しいです！

今日、逃走中だった・・・

・ つか合宿内で逃走中やろっかなと思ってみようと思ってたのに・・・

特別編 プレゼントを渡しに part 1 (前書き)

相変わらず更新遅くてすみません！

ぶよぶよの新作のやつにはまっけてしもって・・・。
ペアでぶよぶよおもしろい！

ウィッチとシェゾの会話がおもしろくて好き！！

ウィッチ「あなたが欲しい。ですわ！」

シェゾ「な、何を言っているんだ！？」

ちなみに・・・

サタアルとシェアルどちらが好きですか？

ウチはシェアルです！

シェゾ「ヘンタイって言うな！！！」

アルル「まだ、言っていないよぉ？」

かわいいです！！

サタン「愛の勝利だ！！！」

アルル「違っつてばぁ！」

話が長くなりました・・・。

それでは、特別編です！どうぞ！！

特別編 プレゼントを渡しに part 1

作者（みさメロン）「では、クリスマスという事でプレゼントを配ろうと思います！」

？「ああ、ここかな？」

みさメロン「ああつ！来た来た！ゆうたん！こっちこっち！」

ゆうたん「こんにちはー」

みさメロン「今回は特別編という事で『スマブラX・ぷよぷよ7で逃走中』

を書いてるゆうたんに来てもらいました！！」

ゆうたん「ねえ、ところで今回の企画は？」

みさメロン「『クリスマスということなのでウチらがサンタになりプレゼントを

あげよう企画』です！」

ゆうたん「長いなあ・・・」

みさメロン「もちろん、この人（？）の力を借りますよ！？」

？「出番遅い・・・」

みさメロン「悪い、悪い・・・」

ゆうたん「つと言つ訳で僕とマスターが加わり3人でプレゼントを渡しに行きます!」

みさメロン「マスターはそのプレゼントを作る役です。いわゆる雑用係?」

マスター「はあー?雑用係なわけ無い!!むしろ重要だろ!」

みさメロン「ごめん・・・、口が滑った・・・(笑)」

マスター「お前な・・・!!」

ゆうたん「まあまあ・・・」

みさメロン「マスター、魔法を使えるようウチとゆうたんに魔法かけて!!」

マスター「なんでだ?」

みさメロン「ウチはラッピング魔法、ゆうたんには・・・、手紙を思いのままに表せる

魔法を!」

マスター「人の話を聞け!」

みさメロン「そもそも、あんたは人ではない!」

ゆうたん「・・・確かに・・・(笑)」

マスター「笑うな!!」

みさメロン「まあ、いいから。早く!」

マスター「仕方ない・・・」

みさメロン「&ゆうたん「ヤッター!!」」

現在22:00

みさメロン「じゃあ、役割はOK?」

- 1、マスターがプレゼントを作る。
- 2、みさメロンがラッピングする。
- 3、ゆうたんがサンタからという手紙を書き、置く。

みさメロン「これでいい?」

ゆうたん&マスター「OK・・・」

みさメロン「では、これで寝ている人を捜しその家からプレゼントを」

渡していくよ！」

マスター「それも、私がつk」

みさメロン「まず1件目！」

ピピピーー！

ゆうたん「えーと、リュカの家だね」

みさメロン「子供だから寝るの早いね。マスター、ワープ！」

マスター「なぜ私が・・・？」

みさメロン「なんか言ってたかなー？」

マスター「いえ・・・」

特別編は12月24日。

本編は8月1日。

なぜ8月って？それは本編の話を考えたのが8月だから！
そん時はまだ登録してなかったからね！

みさメロン 「到着！」

ゆうたん 「僕たちは姿を消してるから、見られることは無いし、しやべっても

聞こえないから大丈夫！」

みさメロン 「えーと手紙・・・、欲しいものが書いてある手紙――」

ゆうたん 「あつたよ！」

みさメロン 「なになに・・・。『臆病にならない薬』？」

ゆうたん 「なんかリユカらしい・・・？」

みさメロン 「・・・まあいい！マスターでは・・・」

マスター 「ぶつぶつ・・・」 呪文的なものを唱えてる・・・

マスター 「はあああ！！！」

とそこに薬が入った小瓶が出てきた。

みさメロン 「次はラッピング魔法――！」

とキレイにラッピングされたものが・・・

ゆうたん 「最後に3人サンタからの手紙だよ――！！！」

と思いそのまま表した手紙が出来た。

みさメロン 「よし！リユカへのプレゼント終わりー！」

ゆうたん 「次、行こーーううー！」

みさメロン 「次はネスの家に！」

ゆうたん 「来てまーす！！！」

マスター 「（私が一番疲れる・・・）」

みさメロン 「なんか思ってる？マスター？？」

マスター 「いや、何も・・・（なぜわかる！？）」

ゆうたん 「ネスはバットとヨーヨーだって」

みさメロン 「新しいのにしたいのかな？」

3つの事をし、ラッピングされたバットとヨーヨー。手紙を付け加えて

みさメロン & ゆうたん 「終わりーー！！！」

みさメロン 「あぁー！書くのめんどくさい！..」

ゆうたん 「と言う訳なそうなので・・・」

みさメロン 「申し訳ないが省きます!!」

ゆうたん 「次回にそれぞれ、誰が何を頼んだか」

みさメロン 「説明して逝こうと思います!!」

ゆうたん 「逝こうと思います!!」

みさメロン 「あらぁ？ウチもゆうたんも天国に逝っちゃうね!!」
「!!」

みさメロン &ゆうたん 「ハハハハハ!!」

マスター 「バカか・・・？こいつら・・・」

みさメロン &ゆうたん 「うつさい!!!!だまっ&け!!」

マスター 「.....」

特別編 プレゼントを渡しに part 1 (後書き)

今回は少し長かったです！

こんな中でも感想、評価などしてくれたら
嬉しいです！！！！！！

それでは次の話まで・・・！！
頑張って更新します！！

特別編 プレゼントを渡しに part 2 (前書き)

特別編の2話目です

特別編 プレゼントを渡しに part 2

みさメロン 「前回の引き続きです……。というけどいちいち軒一軒

まわるのめんどくさいので省略します!!」

ゆうたん「でも、誰が何を頼んだかは発表していきますよ!」

みさメロン 「しかも!時々どんな様子だったかお伝えして逝こうと思います!」

ゆうたん「だから漢字!天国に逝っちゃうよ!」

みさメロン 「すみません……」

ゆうたん「まあ、始めていきますかね?」

みさメロン 「Yes!!」

まず前回の……

1、リュカ 臆病にならない薬 (リュカ・それはないやろ……)

2、ネス バットとヨーヨー (ネスらしい)

のところで終わりました。

みさメロン 「まわった順は……。もう決めるのめんどくさいからキャラクター

つていきます」

選択の左端から（マリオ、ルイージ……）とや

ゆうたん 「めんどくさがり屋？」

みさメロン 「そー、かもね……」

と言う事で3件目は『マリオ』プレゼントは……

『超レアスーパーキノコ』

みさメロン 「どんなキノコ……？」

ゆうたん 「さ、さあ……？」

続いて4件目！『ルイージ』プレゼントは……

『影が薄くならない薬』

みさメロン 「……。これ飲んじやったらルイージのいいところ無いじゃん!」

ゆうたん 「確かに……。てか薬シリーズ第2弾(笑)」

5件目! 『ピーチ』プレゼントは……

『マリオ』

みさメロン 「……(笑)」

ゆうたん 「……(笑)」

マスター「……う、これはどうしろと……?」

みさメロン「どうしよっか……?」

ゆうたん「もういつそのことマリオを転送すれば……?」

みさメロン「もう、そうしよう……。マリオのプレゼントも送るんだよ?」

マスター「……わかった」

6 件目!『クッパ』プレゼントは……

『ギガクッパ』

みさメロン「……。えーと……?」

ゆうたん「スマッシュボールあげれば……? 威力は弱め、時間も短めにして」

みさメロン「うん、そうしよう」

7件目！『ドンキー』プレゼントは……

『バナナ300本』

みさメロン & ゆうたん「うん、なんとなくわかってた……」

8件目！『ディディーコング』プレゼントは……

『バナナ200本』

みさメロン & ゆうたん「うん、ドンキーと一緒にだと思ったよ」

9 件目！『ヨッシー』プレゼントは・・・

『大量の食べ物』

みさメロン　& ゆうたん「もう、だいぶわかってきた・・・」

10 件目えー！『ワリオ』プレゼントは・・・

『金』

ゆうたん「えーとっ？」

みさメロン「図書カードにしよう！」

ゆうたん「なんで？」

みさメロン 「一応金だよ！本しか買えないけど・・・さっ！ワリオ
だし！？」

ゆうたん 「それならいいね！！」

11 件目！『リンク』プレゼントは・・・

『ゼルダに想いを伝える薬』

みさメロン 「出ました！！薬シリーズ第3弾！！」

ゆうたん 「出ましたね！！」

12 件目！『ゼルダ』プレゼントは・・・

『リンク』

みさメロン 「ピーチと同じかいっ!!」

ゆうたん 「なら、リンクの元に転送だね!」

みさメロン 「リンクのプレゼントほとんど意味無い……。両想いだし」

ゆうたん 「そうだね・・・」

13件目『ガノンドルフ』プレゼントは・・・

『スマッシュボール×30』

みさメロン 「30個!!?」

ゆうたん 「かなり威力の低いもの30個でいいんじゃない?」

みさメロン 「そうだね!!ってことで、マスター」

マスター「つ、疲れる・・・」

みさメロン「うーん

頑張っ
て」

マスター「・・・（これがあと何回続くんだ・・・？）」

みさメロン「ってことで次回に続くよー！！」

特別編 プレゼントを渡しに part2（後書き）

感想、評価ください!!!

特別編 プレゼントを渡しに part3 (前書き)

アルル「ねえ、クリスマス過ぎたけど・・・？」

みさメロン「自分の本編入りたい・・・」

全員「じゃあ入れよ!!!」

みさメロン「冷たい・・・(泣)」

マリオ「アイク、作者の機嫌直して来い」(小声)

アイク「なんで、俺・・・？」(小声)

ルイージ「作者はアイクの事好きだから」(小声)

アイク「だからなんで？」(小声)

全員(アイクを除く)「早く!!!」(小声)

アイク「ちよっ!」

みさメロン「ア、アイク・・・」

アイク「あー、さっきのは悪かった・・・」

みさメロン「じゃあアイクだけ許す!!!&出番増やす!!!
さらに肉も付けてあげるよぉー!!!」

アイク「マジっ！！？」

みさメロン「マジで」

アイク「サンキュー！！」

全員（アイクを除く）「えっ！！？」

長くなりましたがどうぞ・・・！！

特別編 プレゼントを渡しに part 3

みさメロン 「では・・・。次はトゥーンリンクからだね！」

ゆうたん 「そうだね!-!」

14 件目! 『トゥーンリンク』プレゼントは - - -

『勇者になれる薬』

みさメロン 「薬シリーズ第4弾・・・」

ゆうたん 「で、言うか。なれてると思う・・・勇者に・・・」

みさメロン 「た、確かに・・・」

15 件目! 『サムス』プレゼントは - - -

『モテる薬』

みさメロン 「今回、まさかの薬シリーズしか・・・!?!」

ゆうたん 「ええー!?!」

みさメロン 「まあ、おっさん達にモテときなよ・・・」

ゆうたん 「・・・(笑)」

みさメロン 「あつ・・・!それか『持てる』と言う事なので力持ちになれる薬にしたら!!」

ゆうたん 「そ、それは・・・」

16件目! 『ピット』プレゼントは・・・

『人間に戻る薬』

みさメロン 「ねえ・・・ゆうたん？」

ゆうたん 「・・・何？」

みさメロン 「ほんとにそうかもよ・・・」

ゆうたん 「そうだね・・・」

マスター 「なあ、人間に戻る薬つくるのかあ？」

みさメロン & ゆうたん 「ああ！！マスター！！いたんだ！！？」

マスター 「居るわあ！！！！！！」

みさメロン 「一日だけなれるような薬作つといて！ウチ等次の人のプレゼント見て

つつこまなあゝいけんから！」

マスター 「・・・」

17件目！『アイスクライマー』プレゼントは・・・

『ハンマー×2』

みさメロン 「いや……。つつこむ所無かった……」

ゆうたん 「確かに……」

みさメロン 「ネスと同じ……。？新しいのにしたかったのかな？」

ゆうたん 「そうかも」

18件目！『ロボット』プレゼントは……

『ハイワ』

みさメロン & ゆうたん 「どうしと……？」

と結構悩まされた二人……

マスター 「いや！二人じゃ無い！！！！！！」

みさメロン 「あれー？誰がいる？」

ゆうたん「いや、いないと思う・・・（笑）」

マスター「だから笑うなあー！！！」

19件目！『カービィ』プレゼントは・・・

みさメロン &ゆうたん「どーせ食べ物だろ・・・」

『カレー×50、シチュー×20、マキシムトマト×100、メロ
ンパン×100、

牛丼×50、オムライス×20、アイスクリーム×1000、バ
ナナ×50、

グラタン×30、・・・（たくさんの食べ物）』

みさメロン &ゆうたん「・・・」

みさメロン 「普通・・・？」

ゆうたん「つつこむ所無い・・・」

21件目！『デデデデ』プレゼントは・・・

『ハンマー』

みさメロン &ゆうたん「はい・・・」

22件目！『オリマー』プレゼントは・・・

『ピクミン』

みさメロン 「うん、すぐ死んじやうもんね」

ゆうたん 「そうだね」

続く・・・！？

特別編 プレゼントを渡しに part3（後書き）

すみません!!

最後、ぐだぐだです……。時間が無かったもんで……

こんなんでも感想、評価してくれたら嬉しいです!!

何書いてもいんで!!!!お願いします!

前書きの続き?

マリオ「作者を殺ろう!!」

みさメロン「あつ、なんかみんなで来やがった!アイク準備は?」

アイク「OK……」

マリオ「行け————!!」

アイク「最後のきりふだ……

大天空!!!!」

全員（アイクを除く）「えつつつ!!!!!!?」

マルス「なんでアイクが……!!!」

みさメロン「教えてあげる。

肉だよ!!!!!!!!」

全員（アイクを除く）「はあああああ————!!!!!!??.?」

次回の前書きに続く!?

本文の最後に続く!!

特別編 プレゼントを渡しに part 4

みさメロン 「今回で終わるよ!」

ゆうたん「では、さっそくやろう!」

23件目!『フォックス』プレゼントは――

『ランドマスターの強化』

みさメロン & ゆうたん「あれ以上強化になるとヤバイって!」

24件目!『ファルコ』プレゼントは――

『ブラスターの強化』

ゆうたん「なんでこれ!？」

みさメロン「あゝわかった!そうめんを強化したかったんだ!!
うんうん・・・」

ゆうたん「!？」

25 件目!『ウルフ』プレゼントは・・・

『ランドマスター改(赤いやつ)の強化』

みさメロン & ゆうたん「フォックスと同じ!!？」

26 件目!『キャプテン・ファルコン』プレゼントは・・・

『足が速くなる薬』

みさメロン 「ソニックが出て2位になったから?」

ゆうたん 「そうかもね」

27件目! 『ピカチュウ』プレゼントは――

『電気』

みさメロン &ゆうたん 「はiiiiiiii――!!!!!!?」

みさメロン 「どうしょっか・・・」

ゆうたん「まあ、マスターに任せよう!」

マスター「はぁーーーー!」

みさメロン「うん、そうしよう!」

マスター「待てええ!」

みさメロン「待てと言われて待つ奴はいねーーーー!」

ゆうたん「確かに・・・(笑)」

マスター「笑うなと何度つっこませる気だ!」

みさメロン「次!次!」

マスター「強制終了!」

みさメロン「はい! (。 ^*)」

マスター「(泣)」

28件目!『ポケモントレーナー』プレゼントは・・・

『マスターボール×30』

みさメロン 「えーと、これでステージに出てくるポケモンゲッ
トするき？」

ゆうたん 「そう、かも・・・」

みさメロン 「うち、バグ（っていうか裏技というか・・・）でマス
ターボール

作りまくったけど・・・」

ゆうたん 「・・・」

29件目！『ルカリオ』プレゼントは・・・

『出番が増える薬』

みさメロン 「ごめん・・・、あんまりルカリオ使わんし・・・」

ゆうたん 「これはみさメロン が決めることだね」

みさメロン 「そうだね」

30件目えー！『プリン』プレゼントは――

『マイク』

みさメロン 「大きい声で歌ってるのに、マイクなんか使って歌うと・・・」

ゆうたん 「重症だね・・・」

みさメロン 「確実に・・・、やられるね・・・」

31件目！『マルス』プレゼントは――

『アイクより人気が出る薬』

「残念だね！ウチはアイク派だ――！！！！友達に聞いても

15対2ぐらいでアイクの勝ちなのさー！！そ

意味は無い！！！！！」

ゆうたん「す、す、す……」

32 件目！『アイク プレゼントは - - -

「ウチにはアイクの頼んでいるものがわかる……！」

「ゆうたん（さつきあんなの聞いから）よっぱど自信があるんだ・・」

みさメロン 「もっちろん!!」

ゆうたん「（僕にもわかるけど……）何？」

「肉ううううう——！！！！！！！！！！」

ゆうたん「（やっぱり・・・）だよね・・・」

みさメロン 「しか無いよ！」

『肉×100（高級の）』

ゆうたん「何！？最後の（ ）の中の『高級の』って・・・」

みさメロン「マスター！！！！高級なを用意！！！」

マスター「はいはい・・・」

みさメロン「何！！！！！！！！？？？文句でも！！！！？」

マスター「いえ・・・」

ゆうたん「恐るべし・・・」

33件目！『Mr・ゲーム&ウォッチ』プレゼントは・・・

『ハイワ』

『溺れない薬（泳げるようになれる薬）』

みさメロン 「ソニックって泳げないんだっけ……？」

ゆうたん 「た、確か……」

みさメロン 「最後の最後に薬シリーズ……」

ゆうたん 「薬シリーズ第10弾……」

マスター 「つ、疲れた……死ぬ……」

みさメロン 「あつそ……」

マスター 「（泣）」

ゆうたん 「みさメロン お疲れ〜！」

みさメロン 「お疲れ〜！ゆうたん！」

ゆうたん 「それでは……」

みさメロン & ゆうたん 「かんぱ〜い！〜！」 ジュースです

みさメロン 「おいし〜い！〜！」

ゆうたん「うん!!」

みさメロン「と言う事で・・・」

ゆうたん「特別編は今回で終了ーです!!」

みさメロン「ありがとうーございましたー!!」

前書きの続き

グレイル傭兵団メンバー

(団長)アイク (副長)ティアマト (アイクの妹) ミスト
セネリオ、オスカー、ボーレ、ヨファ、シノン、ガトリ、キルロ
イ、ワユ
(オスカーとボーレとヨファは兄弟)

アイク「マルス、行くぞ!!」

マルス「!？」

アイク「はあ!!」

マルス「よっ!・・・人数的にこちらが有利・・・」

アイク「？」

マルス「ロイ、リンク、ピット！！！！」

アイク「！！？」

キンー！！

アイク「4人相手が・・・」

リンク「隙やり！！」

？「そうはさせないよ！！！！」

アイク「ワユ！！」

ワユ「流星！！！！」

4人「！！！！？」

ワユ「はあ！！」

4人「わっ！！！！」

ワユ「よーっし！絶好調の剣の冴え。我ながら惚れ惚れしちゃう
ねえ！」

アイク「ワユ、助かった」

ワユ「ゼーんぜん！大将にはまだだよ！」

人数はスマブラメンバーのほうが多いのにグレイル傭兵団が勝ちました！！

特別編 プレゼントを渡しに part 4（後書き）

見てくれてありがとうございます!!
こんなんでも感想、評価ください!!

グレイル傭兵団、こんな感じで初登場・・・。

これからも出していけたらな・・・。

アイク「俺とワユとセネリオしかしゃべってないが・・・？」

まあ！気にすんな！！

グレイル傭兵団（しゃべってない人）「気にするわあ！！」

久しぶりの本編！（前書き）

やーっ和本編です！！

特別編長かった・・・。

今日2話更新出来た！！って言うのは特別編書く気なかったから先に書いてたんだよね・・・本編の方。

無駄話はさて置き・・・どうぞ！！

久しぶりの本編！

現在 10:00

マスター「では、夕食まで自由時間だ。昼は12時に食堂へ集合だ。
では、解散！」

子供達「わぁーーーーー！！」 作者「やっぱり子供！」

と鬼ごっこして遊ぶ子供達 作者「はやっ！！」

？「ねえ、私達はお茶でも・・・」

？「いいわね」

？「私もいいかしら？」

とゼルダ、ピーチ、サムスは3人でお茶をするらしい。

アルル「ぼくは、ここらを回ってみよう」

と来た事の無いアルルは合宿所の近くを見て回るらしい。

？「マルス」。剣の稽古しようぜ！」

マルス「（アルル・・・、どこかに行くみたいだしついて行こう）」

ストーリーカー（笑）ですね・・・）

、艸、）フ、ハッ

マルス「失礼だな・・・!!」

？「おい、マ・ル・ス!!」

マルス「あっ・・・、なんだいロイ？」

ロイ「だから、剣の稽古しようぜ？」

マルス「あぁー、うん。

パス　するよ（＊・　＜＊）

ロイ「・・・」

マルス「アイクとでもやつとけ!じゃあ!」

ロイ「って、どこ行くんだー!!?」

ロイの言葉を見殺しに去っていくマルス……。

ロイ「まっ、いつか……。……アイク？ 稽古しようぜ！」

アイク「ああ……」

？「待って！ 僕も混ぜて」

？「俺も入れてくれ！」

ロイ「ピットにリンク！ いいよ、……。……ってか乱闘すりゃーいいじゃない！」

ピット「さんせーい」

アイク「まかせた」

リンク「では、移動しましょうか」

合宿所のまわりを見て回るアルル

アルル「へー、キレイな海があるんだ……」

？「それはスマブラ海。マスターが作ったものだよ」

ネーミングセンス無い！！

アルル「わっ！？だ、誰！？」

？「あつ、ごめん。僕はマルス。よろしくね」

アルル「・・・（ビククリした・・・。美形さん・・・）」

アルルはこんな事思わない
か・・・

マルス「だから失礼だつて！！」

マルス「ねえ君の世界はどんなところ？」

アルル「・・・」

マルス「あれ？聞いたらだめだった？」

アルル「あつ、いえ・・・」

マルス「・・・？」

アルル「楽しいところだよ」

マルス「ねえ、向こうにはどんな人がいるの？」

アルル「そうだね。ぼくを勝手にフィアンセとか言う人とか・・・、
ぼくの魔力を欲しがってる人とか・・・、勝手にライバル
にする人とか・・・」

ぷよぷよ知ってる人はお分かりでしょう・・・？

マルス「えっ！！？ふい、フィアンセ！！？」

アルル「まあ、しつこく言う訳・・・」

マルス「それは大変だね」

アルル「マルスさん、どうしてここに？」

マルス「あつ・・・。えつと・・・」

アルル「・・・ごめん。何でも・・・」

マルス「あ、あのさ？」

アルル「はい？」

マルス「呼び捨てとタメ口で」

アルル「は、はい・・・」

マルス「・・・（いざとなると何を話せば・・・）」

アルル「では、マルス。ぼくはこれで！」

マルス「えっ？どこに行くの？」

アルル「初めての場所だからグルツと見て回ろつかと・・・」

マルス「それなら僕も一緒に行くよ」

アルル「いいですよ！そんな・・・」

マルス「なんかあったらいけないしね」

アルル「そ、そう・・・？（大丈夫だけど・・・）」

散歩中（？）・・・

二人の会話に花が咲いた・・・

アルル「楽しかったよ、マルス！ありがとう！！」

マルス「こちらこそ！」

と、マルスに何もされず無事帰ってこれたアルル。

マルス「だから、何もしないって!!」

いやあ、あんたの事だからなんかしそつで・・・

マルス「失礼なあ!!!」

？「アルルさ〜ん!!一緒に鬼ごっこしよう!!」

と話しかけて来たのはポポだった。

アルル「ふえ!？え、えーとっ・・・」

突然声をかけられたもんだから驚くアルル。

？「あつ・・・自己紹介遅れたね。ぼくはポポだよ」

アルル「あ、うん・・・よろしくね、ポポさん」

ポポ「『さん』は要らないよ？ぼくもさん付けしなくていいかな？」

アルル「うん」

？「ポポまだあ〜？」

ポポ「あつ、ナナ!」

ナナ「ポポ遅いよ」

ポポ「ごめん・・・って今話しかけたところだし・・・」

ナナ「わたしはナナ！ねえ一緒に遊ばない？」

ポポ「無視！？」

アルル「ぼくはアルル。ぼくでなければいいけど・・・？」

ナナ「ヤッター！！みんないいってよ！！」

子供達「イエーイ！！」

アルル「！？」

？「僕はネス！よろしく！！」

？「ボクはリュカだよ」

？「僕はトウーンリンク！」

？「ぼくはピカチュウ！よろしく」

？「ピカチュウの弟、ピチューですう！」

？「僕はポケモントレーナーこと、レッドだよ」

子供の保護者的な存在。

？「わたしはプリンでしゅ。歌うことが好きでしゅ、ここで1曲・・・」

」

子供達「わああー！！待った！！遊ぶ時間がなくなるからあ！」

プリン「仕方が無いでしゅ・・・」

アルル「えっと・・・。ぼくはアルル。よろしく。呼び捨てでOKだよ」

子供達「よろしくー！！」

マルス「ちょっと、みんなー！！」

子供達（アルルを除く）「ああ！！マルス居たんだ！！！」

マルス「わっ、ひどいー！！」

とマルスは走り出した。

ネス「あっ！逃げた！！」

リユカ「放っておこう」

ポポ「まあ遊ぼうー！！」

子供達「うん！」

とお昼までたっぷり遊びました。

久しぶりの本編！（後書き）

なーんか今回普通・・・。

感想、評価・・・、

お気に入りに入れてくれたら嬉しいです！！！！
待ってまーす！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4907z/>

合宿です！！全員集合！！

2011年12月28日23時55分発行